

## 四国中央市福祉バス運営審議会 会議概要

1. 日 時 令和5年7月5日（水） 午後2時00分～午後2時50分
2. 開催場所 四国中央市 新宮公民館1階研修室
3. 出席者 委員 会長出水武美、副会長篠原隆輔、山本正行、藤原清子、脇 廣子、  
三鍋邦代  
(敬称略)  
事務局 観光交通課長 岸井宏次、観光交通課交通政策室長 高津孝雄、  
課長補佐 脇 寿司

### 会議の概要

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 自己紹介

観光交通課長を始め、事務局から自己紹介を行った。今年度の異動で観光交通政策室長高津孝雄と新宮窓口センター課長補佐脇 寿司及び再任用職員の石川裕次が新しく配属された。続いて委員の自己紹介を行った。

#### 4. 議事 1. 令和4年度の利用状況について事務局より報告

- ・一般乗合利用者数（現金での利用者）について

令和4年度の利用者数合計は2,090人（年間延べ人数）であった。月別の利用者数は最小143人から最高200人であり、大きな変動が無いため、定期的に利用している乗客がいると考えられる。

- ・定期券・回数券の利用状況について

新瀬川線について、令和4年度の定期券は、小学生2人と一般の販売があった。回数券は令和3年度36冊、令和4年度40冊の販売があり4冊の増加。上山上部線について、回数券は令和3年度46冊、令和4年度40冊の販売があり、6冊の減少。

- ・しこちゅ～チケットの利用状況について

上山下部線25人、新瀬川線12人、上山上部線12人、計49人の利用があり、前年度より19人の増加。

- ・令和4年度の年間利用者数は3,145人、令和3年度の年間利用者数は3,559人で414人の減少。転居や施設への入居また移動スーパーの利用者の増加等が乗車人数の減少に繋がっていると考えられる。

- ・令和元年度から令和4年度別の利用者の推移について

全体の利用者数は、年々減少傾向にある。路線別について、新瀬川線、上山上部線は減少傾向。日浦線が増加しているが、奥の院への利用者が多かった為であり、不規則な変動があると考えられる。上山下部線は平均的な利用者数。大谷線は前年度と比較して利用者が大幅に減少。杉谷線、田之内線は減少傾向。

- ・令和元年度から令和5年度別の新宮町の人口の推移について

人口は年々減少傾向だが、その内の65歳以上の高齢者は年々増加傾向で、約55%を占めている。

議事1について質疑応答無し

議事2. 市町村運営有償運送の更新登録について事務局より報告

前年度の運営審議会では新瀬川線について、利用者の買い物時間を考慮し、第4便の新宮発の時間を10分遅らせるという案が出ていたが、現状では移動スーパーの充実により福祉バスを利用する買い物客が減少していることもあり、要望が出ていない。また第7便では、診療所17:54発の利用者がいないので待機時間を29分早めることで、運転手の労働時間の軽減を図る案が出ていたが、現在は新宮小中学校の生徒が利用をしていることから、運行の見直しは行わず現状維持としたい。今後、高齢者が増加することにより免許返納者も増加すると予想されるため、その時々ニーズに合わせて運行の見直しを行いたい。

資料の説明

資料2 福祉バスの時刻表

資料3

【通常運行車両の説明】

- ・新瀬川線 R4年度購入（日産 キャラバン 10人乗り）
- ・上山上部線・日浦線（トヨタ ハイエース 10人乗り）
- ・上山下部線・大谷線・杉谷線・田之内線（トヨタ ハイエース 14人乗り）

【安全装置装備追加（コーナーセンサー取付）】

事故防止の為、上山上部線・日浦線と上山下部線・大谷線・杉谷線・田之内線の2台コーナーセンサーを設置した。新瀬川線は、購入時に設置されている。

議事2について質疑応答無し

その他

三鍋委員 大谷線の運航を週2回にはできないか。

事務局 今後利用者が増加すれば審議会で協議して変更するが、現在は週1回の運行とする。

三鍋委員 新宮地域住民の交通の便が悪いので、福祉バスやデマンドタクシー等の運用について再度見直しが必要ではないか。

事務局 高齢者の増加に伴い利用者の人数に応じて、その都度見直していく必要がある。

出水会長 時刻表については、これまでも利用者の状況を見ながら審議し変更を行ってきた。福祉バスの行き届かない地域の高齢者については、外出支援バスの利用もできる。人口が減少し利用者も減少している中で、今以上に福祉バスやデマンドタクシーの便数を増やすのは経費等を考慮すると難しい。大谷線については、福祉バスの時刻変更を行うことで便利になるようであれば検討したい。このような課題は新宮のみならず全国的な課題だと思う。

岸井課長 公共交通は、四国中央市だけではなく全国的に厳しい状況になっている。それ以外の福祉や高齢者施策として対応できることがないか他課と連携して検討していきたい。

三鍋委員 利用者の立場になって、考えてほしい。

脇委員 外出支援バスは、福祉バスが運行している路線は利用できないのか。

事務局 福祉バスがカバーできていない地域の方が登録をして利用する仕組み。

脇委員 高齢になるとバス停まで歩いていくのが困難になってくるので、福祉バスの運行経路であっても利用できるようになれば良いのではないか。

事務局 外出支援バスは長寿支援課が担当課になっているが、今後は連携をとりながら、足りない部分を補っていく必要がある。

観光交通課長 閉会のあいさつ